

News Release

2014年7月23日
マルホ株式会社

報道関係各位

化膿性炎症を伴うざ瘡および表在性皮膚感染症 に対する新たな外用抗菌薬を承認申請

マルホ株式会社(本社:大阪府大阪市北区、代表取締役社長:高木幸一、以下、マルホ)は、オゼノキサシンを含有する外用抗菌薬(以下、本剤)について、ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの)および表在性皮膚感染症の適応で、本日、厚生労働省に製造販売承認申請を行いましたのでお知らせいたします。

オゼノキサシンは、富山化学工業株式会社によって創製された新規のキノロン系抗菌化合物で、好気性グラム陽性菌、陰性菌および嫌気性菌に対し、強い抗菌作用と広い抗菌スペクトラムを有しています。特に、ざ瘡の原因菌であるアクネ菌、とびひの原因菌となる黄色ブドウ球菌に対して抗菌活性が高いことから、マルホと富山化学工業株式会社は、外用抗菌薬として共同開発を行ってきました。

マルホは、今回の申請により、ざ瘡やとびひに対する新しい治療薬を提供できるものと期待しております。

以上

ざ瘡について

一般的に「にきび」といわれ、ホルモンの影響などで皮脂分泌が活発になることで毛穴に皮脂が詰まり、毛嚢(もうのう)や皮脂腺に炎症を生じる皮膚疾患です。日本においては、一般用医薬品、医薬部外品・薬用化粧品によるセルフケアが広く行われており、皮膚の“病気”という認識が薄いのが現状です。悪化すると化膿し、瘢痕(にきび痕)が残るため、皮膚科での適切な治療が必要です。

ざ瘡治療への取り組み

化膿性炎症をともなうざ瘡の治療における内服抗菌剤として、経口用ペネム系抗生物質製剤「ファロム[®]錠150mg・ファロム[®]錠200mg」(一般名:ファロペネムナトリウム水和物)を販売しています。また、尋常性ざ瘡の治療薬として、BPO(過酸化ベンゾイル)を有効成分とした外用薬を2014年3月に承認申請しました。マルホはにきびに悩む患者さんへの情報提供サイトを運営しています。www.maruho.co.jp/kanja/nikibi



表在性皮膚感染症について

黄色ブドウ球菌をはじめとする皮膚表在菌が毛穴や傷に侵入し、炎症をおこす皮膚疾患です。毛瘡(かみそり負け)、化膿性皮膚炎、伝染性膿痂疹(とびひ)、膿痂疹、毛囊炎、毛包炎などを総じて表在性皮膚感染症といいます。

マルホはとびひに関する情報サイトを運営しています。www.maruho.co.jp/kanja/tobih

マルホ株式会社について

マルホ株式会社は大阪市北区に本社を置く、医療用医薬品の研究・開発・製造・販売を行う製薬企業です。創業は1915年、従業員数は1,223人(2013年9月末)です。2013年9月期の売上高は630億9千8百万円でした。

“Excellence in Dermatology”を長期ビジョンとして掲げ、皮膚科学領域での卓越した貢献を目指しています。

マルホ株式会社についての詳細はwww.maruho.co.jpをご覧ください。

本件に関する問い合わせ先

マルホ株式会社 広報部

杉本美麗

Tel: 06-6371-8831 Fax: 06-6371-8679

Email: kouhou@mii.maruho.co.jp